

令和7年(2025年)11月

札幌市立上篠路中学校

令和7年度 全国学力・学習状況調査 実施報告

令和7年4月14日(月)に実施された全国学力・学習状況調査の結果から、本校生徒の生活習慣や生徒自身に関わること、学習に関わることについて、課題や改善の方向について検討した結果をお知らせいたします。保護者・地域の皆様にご覧いただき、本校の学習状況についてお知りいただくとともに、今後、学校・家庭・地域が一体となった教育の一層の充実に向けて、ご理解とご協力をお願いいたします。

【質問紙調査】

生活や学習に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

1. 生活習慣に関わること

○「朝食を毎日食べている」と回答した生徒が88.5%(全国91.2%)、「毎日同じくらいの時刻に起きている」と回答した生徒が94.4%(全国92.5%)に達しています。一方、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」と回答した生徒が72.1%(全国81.0%)との回答です。概ね、規則正しい生活習慣が身に付いていますが、心と体の健康を維持するための睡眠の重要性を引き続き伝えていきます。ご家庭でもご指導いただけると幸いです。

2. 生徒自身に関わること

○86.1%(全国83.3%)の生徒が「自分にはよいところがある」と回答し、94.5%(全国90.4%)の生徒が「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答しました。これからも“さっぽろっ子「学び」のススメ”の通り「まほうのかいわ」で積極的なコミュニケーションを増やし、これまで以上に子どもの成長を促していきたいと思います。

○91.8%(全国91.4%)の生徒が「友達関係に満足している」と回答し、78.7%(全国79.2%)の生徒が「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と回答しています。一方、「学校に行くのが楽しい」と回答した生徒が80.4%(全国86.4%)と回答しています。学ぶことの必要性を感じて、生き生きと生活できる学校づくりに努めていきたいと思います。

○91.6%(全国96.6%)の生徒が「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答し、73.8%(全国75.3%)の生徒が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答しました。“さっぽろっ子自治的な活動”に様々な体験活動等を取り入れながら、自分の興味・関心などの個性を理解させ、将来の生き方、働き方等を考える力を育成していきたいと思います。

3. 学習に関わること

○1、2年生のときに受けた授業では、「自分の考えを発表する機会では、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した生徒が50.8%（全国63.0%）、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒が62.3%（全国77.7%）、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」と回答した生徒が45.9%（全国70.6%）と全国平均を下回る回答となりました。より一層、自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する学習（課題探究的な学習）を効果的に取り入れながら、学習に取り組む態度を育みたいと思います。

○学習した内容について、「よくわからなかった点を見直し、次の学習に繋げることができている」と回答した生徒は59.0%（全国73.4%）、「次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができる」と回答した生徒は57.4%（全国74.8%）でした。上記の主体的な授業への取り組み態度と比例する回答となりました。計画的で系統的な学習活動を展開すると同時に、授業の内容を実生活で自分事として捉えられるよう、工夫して指導していきたいと思います。

○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した生徒は、95.0%（全国91.5%）でした。一方、「学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した生徒は67.2%（全国89.3%）、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」と回答した生徒が60.7%（全国77.3%）でした。道徳の授業を通して身に付けた協働的な学びを生かせるよう、教科の授業や学級活動などで対話や交流の場面を効果的に設定し、学びを促進していきたいと思います。

4. ICT（情報通信技術）について

○「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか」と回答した生徒が85.3%（全国83.5%）、「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができると思いますか」と回答した生徒が91.8%（全国91.5%）、「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか」と回答した生徒が75.4%（全国76.6%）でした。今後も思考力・判断力・表現力の育成につながる効果的な活用方法を実践していきたいと思います。



【中学校国語】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【内容】

□「言葉の特徴や使い方に関する事項」

・全国平均を下回っている。

□「話すこと・聞くこと」

・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている。

□「書くこと」

・全国平均を下回っている。

□「読むこと」

・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

●事象や行為を表す語彙について理解していること。

●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができること。

●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと。

●読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えること。

●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること。

改善の方向

○動詞や形容詞、形容動詞、名詞、副詞など様々な語句について取り上げ、語句の量を増やすとともに、話や文章の中でどのように使用されているかについて考える学習活動を充実させる。

○伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用する学習活動の充実をはかる。

○意見とそれを支える自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめて書く学習活動の充実をはかる。

○伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、文字や表記が正しいか、漢字と仮名の使い分けが適切かなどを確かめて文章を整える学習活動の充実をはかる。

○作品の場面をとらえてその構成を理解するだけでなく、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握する学習活動の充実をはかる。

【中学校数学】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【領域】

□「数と式」

・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「図形」

・全国平均を下回っている。

□「関数」

・全国平均を下回っている。

□「データの活用」

・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。

●統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができること。

●一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること。

●事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

●相対度数の意味を理解していること。

●不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること。

改善の方向

○事柄が一般的に成り立つ理由を説明するための構想を立て、式の意味や構造に着目して、等式の性質や法則に基づいて説明できるような学習活動の充実をはかる。

○証明において、結論までの過程や根拠を論理的に振り返り、多様な視点で捉え、より良い説明をする学習活動の充実をはかる。

○一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合の意味を、表やグラフに関連付けて正しく理解し、 x や y の増加量を具体的に求める学習活動の充実をはかる。

○問題解決の見通しを立てる場面や、問題解決の過程や結果を振り返る場面において、数学を活用する方法を考え、説明できるような学習活動の充実をはかる。

○ある階級の度数の総度数に対する割合を求めて、データの特徴を読み取る活動を通して、相対度数の必要性和意味を理解できるような学習活動を充実させる。

○不確定な事象の起こりやすさについて、判断した理由を確率を用いて説明できるような学習活動の充実をはかる。

【中学校理科】

教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について

本校の概要

【領域】

□「エネルギー」

を柱とする領域

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「粒子」

を柱とする領域

- ・全国平均を下回っている。

□「生命」

を柱とする領域

- ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている。

□「地球」

を柱とする領域

- ・全国平均を下回っている。

今回の調査における課題

- 【考察】をより確かなものにするために、音に関する知識及び技能を活用して、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明できること。

- 塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いていること。

- スケッチから分かる植物の特徴を基に、植物の葉、茎、根のつくりに関する知識及び技能を活用して、植物の茎の横断面や根の構造について適切に表現できること。

- 小学校で学習した知識を基に、地層に関する知識及び技能を関連付けて、地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈できること。

改善の方向

- 様々な観察・実験をととして条件制御の考え方を理解していけるように学習を設定する。また、科学的な探究の過程を振り返り、探究をする際に、見通しをもって進めることができるような学習活動の充実をはかる。

- 物質を元素記号で表すことができ、記号を使って表記することの有用性を理解する。また、正しい標記の仕方について繰り返し身に付けさせる学習活動を充実させる。

- 身近な植物の外部や内部の形態の観察を行い、共通点や相違点があることを見出させる。そして、植物の器官の基本的なつくりを見出し、既習事項と結び付ける学習活動の充実をはかる。

- 地層を構成する堆積岩などに関する既習の知識の習得をはかり、実際の地層の様子と関連付けて考察をすることができる学習活動の充実をはかる。